

「国語」の力を育むITの活用 ーデジタルコンテンツを活用した授業実践ー

愛媛県松山市立味酒小学校 教諭 石田 年保

キーワード：小学校、4年生、国語、デジタルコンテンツ、PDP式電子情報ボード

1. 授業実践の概要

「教育の情報化」政策のもと、2005年を目標に普通教室でのICT環境整備が進んでいる。今後は、ITを活用した特別な授業のための整備ではなく、日々の授業を支える基本的学習環境の整備がより強く求められよう。そうした状況を受け、光村図書では、2005年度以降に使用される小学校国語科用検定教科書のデジタル化を進め、普通教室での活用を想定したデジタルコンテンツ「提示型教授用ソフトウェア」を開発した。

本実践では、デジタルコンテンツや提示する装置「電子情報ボード」の普通教室での有効的な活用について報告する。

1.1 単元名の概要

教科	国語		
単元名	「伝え合う」ということ（光村図書） ※平成17年度版の教科書を使用した。	指導計画	16時間（本時その1）
実施学年	第4学年		
授業実施日	平成16年9月16日（月）	実施場所	普通教室

1.2 単元のねらい及び授業の概要について

本単元は、指導要領の指導内容A「話すこと・聞くこと」をおもなねらいとした学習単元である。本授業は本単元の第1時（単元の導入）にあたり、単元全体を通した児童の学習課題および学習意欲をもたせることをねらいとした。

1.3 実践授業で活用したコンテンツ及び機器について

(1) 「デジタル教科書」（光村図書）

デジタル教科書に以下のような機能やコンテンツが準備されている。

- ・教科書本文や挿絵の拡大提示
- ・教科書本文の朗読機能
- ・各単元に関連する動画や静止画のほか、学習指導書に対応した教材やワークシート、発展学習の教材などの収録
- ・新出漢字の筆順をアニメーションで表示

(2) PDP式電子情報ボード（Pioneer）



2. 実際の授業の様子

本授業では、生活で使われている「伝え合う」方法について考えさせ、「手と心で読む」ということはどういうことかを予想させながら、点字に対する興味関心を高めていった。

次に、写真2の点字の静止画を提示し、気がついたことを話し合わせると、点字が規則性をもった「文字」であり、また、身の回りにたくさんあるという意識をもたせることができた。

さらに、市政情報を点字訳した資料と点字の50音表を配布し、点字を読む体験をさせた。本物の点字に触れ、手で読むことの難しさを体験させる中で、「目の不自由な人はどのように点字を読んでいるのか？」という疑問が児童の中に芽生えてきた。

そこで、児童に目の不自由な人がどのくらいの速さで点字を読むのか予想させた後、動画クリップ「点字を読んでいる様子」を見せた。その際、観察すべき点を明確にするために、最初は音声を消し、指の動きに注目させるようにした。その後、音声を入れて実際に音読をしている声を聞きながらその様子を観察させた。児童は自分たちの予想とは違い、目で読むのと変わらないスピードで点字を読み取っていく姿に驚きの表情を見せた。また、映像から右手と左手の指の使い方やどうやってその技能を習得した



